

晴耕雨読

2020.11.11

前川 義信

地球との最接近を終えて火星も夜半には空高く見えて、観測好機が続きます。視直径が18秒前後でまだ大きく見えます。

1 火星の撮影に影響するもの

また、惑星写真は、大気の流れにすごく影響されるので、望遠鏡での見え方や写真の写り方が日によって全く変わります。

10月号で少しお知らせした大気の影響には、大きく2つの要素があります。

一つ目はシンチレーション(星の瞬き)で観測屋さんたちはシーイングと呼んでいます。

日本列島の上空はジェット気流が南北に蛇行する場所にあり、この気流の影響をまともに受けます。ジェット気流に覆われると急流の川床から空を見ているような状態になり、星は激しく瞬き、惑星は形が分からないくらいにグニャグニャと暴れ回ります。見られるものではありません。

二つ目はトランスペアレンシー(透明度)と呼ばれるもので、大気の透明度を表します。

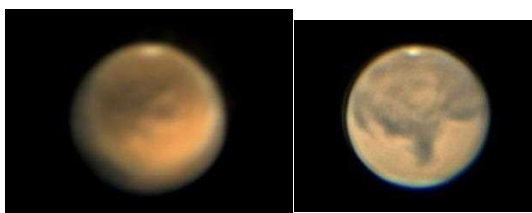
雲や霞、湿度などが透明度を悪くする原因です。最近では、中国から流れてくるPM2.5や花粉などの影響も知られるようになりました。

惑星の撮影で最も影響があるのが一つ目のシーイングです。惑星がまるで空に張り付いているように、ピタリと止まって見えることは、東北地方は1年間で数度しかありません。

沖縄地方や赤道に近い国では、ピタリと止まった惑星像が見られる確率がと高くなります。

<大気の影響による写り方の違い>

10月6日準大接近の火星 10月21日の火星



2 家の周辺のチョウたち

<11月2日>ツマグロヒョウモン

(チョウ目タテハチョウ科)



10月中旬にまだサナギだったのを見ていましたが、11月になったら抜け殻になっていました。

その抜け殻も3個しかなく、風に飛ばされたのでしょうか。7頭すべて羽化できたのか心配です。

<11月9日>アゲハ? (チョウ目アゲハチョウ科)



玄関脇に時々猫がきてトイレ代わりに花壇を使っている様子が見られ、昨年園芸店で「ネコヨラズ」という名前の植物 *Ruta graveolens*(ミカン科ヘルニア属)を発見し、一株植えてみました。ネコは撃退できましたが、冬も迫ったこのときに、アゲハの仲間の幼虫を何と7匹も発見しました。

ミカン科の植物なので、ネットでネコヨラズの口コミを見たら、アゲハの幼虫の食草になっていることを確認しました。まだ4齢幼虫なので種類ははっきりしませんが、黒い横縞が印象的です。

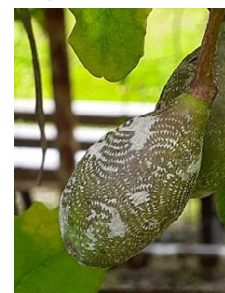
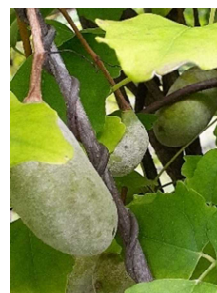
食草の葉もわずかになり、7匹がサナギになるのはかわいそうですが無理かも知れません。

3 公園で謎の食み跡発見!

謎の食み跡 その正体は?

散歩中に近所の公園にアケビのつるがあったのを思いだし、寄り道しました。

7月24日のアケビ (まだ青い)



するとまだ青いアケビの実に何か幾何学的な模様が付いている実を発見しました。これは、一体誰がこんないたずらをするのか知りたくなり、興味がわきました。それで、朝や夕方行ってみましたが、正体がつかめず、諦めかけた頃、庭にある畑のナスにも同じような模様を発見し、これが正体を探すヒントになりそうだと感じました。

ナスの場合、オオニジュウヤホシテントウというナス科の植物を食べるテントウムシの仲間が、きれいな食み跡を残して、ナスの実の表皮を食べていました。

オオニジュウヤホシテントウ
(コウチュウ目テントウムシ科)



<8月7日>ナスの表皮を食べる様子
両者の食み跡の比較



上の画像の比較をするとアケビの表皮の様子は、鋭い三角形の連続が弧を描いて付けられています。一方オオニジュウヤホシテントウの方は、細い筋の連続で弧を描いているのが分かります。

これを見て、私が小さい頃飼育したカタツムリも、これらと似たような食み跡をキャベツの葉に残していたような記憶が蘇ってきました。

果たして、アケビの食み跡の正体は…
来年への宿題とします。

4 天体ショー情報

1) しし座流星群

極大は11月17日19時頃となり、日本では17日深夜から18日早朝にかけてがチャンス。また、今年は1234年回帰時のダストトレイルが21日0時に接近する予報があり20日深夜から21日早朝が要注意！運がいいと火球が多く見られるかも知れません。

2) 半影月食

11月30日の時間と高度・方位

半影食の始め 16:30 2.3° 東北東

食最大 18:42 26.6° 東

半影食の終わり 20:55 52.0° 東

3) ふたご座流星群極大

極大の日は12月13日夜から15日朝までの2日間がねらい目です。空の暗いところで、ふたご座から飛び出す流星を観察しましょう。

4) 土星と木星の接近

12月21, 22日は0.1°(約6分角)まで超大接近。望遠鏡の40倍程度でも一つの視野に並んで見えます。

その前の17日には、月齢2.7の三日月も加わり三密に集まって見える20年に一度の天体ショーが見られます。

ステラナビゲーターより

